クマタカ　タカ目タカ科

Spizaetus nipalensis (Hodgson, 1836)

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

環境省：絶滅危惧IB類(EN)

撮影：小椋一博

■**選定理由**：繁殖期にも記録があり，県内で繁殖しているものとみられるが，生息個体数は少ない。

■**形態と生態**：全長雄70cm，雌80cmほど，翼開長140−165cmの大型のタカ。翼は比較的短めで，幅が広く後縁にふくらみがある。尾は長めで幅が広い。後頭の羽毛は少し長めで冠羽状。頭部から体の下面は白く，上面は灰黒褐色。頭部・首・胸部には黒い縦斑があり，腹部には黒い横斑がある。九州以北の山林に留鳥としてすみ，見晴らしの良い場所でウサギ，ヤマドリ，ヘビ類など獲物を待つ。餌は中型の哺乳類，鳥類，爬虫類など。

■**分布(県内)**：全域の山地の森林。若桜，八東，智頭，用瀬，河原，佐治，鹿野，三朝，関金，赤碕，中山，大山，江府，溝口，日野，日南などの町村で記録がある。

■**分布(県外)**：北海道，本州，四国，九州の山地森林（本州中部では標高500−1500mくらい）；中国南部，タイ北部，ヒマラヤなどでの留鳥。

■**生息環境**：主に落葉広葉樹林帯。

■**保護上の留意点**：県内には，従来から県南部の山地に広く分布しているものの，針葉樹の造林地の拡大などの森林開発にともなって，生息環境の破壊や餌となる動物の減少が進み，個体数が減少しているとみられる。かろうじて残された落葉広葉樹の自然林の保護を第一とし，奥山の人工林の針広混交林化や自然林の再生が望まれる。

■**特記事項**:「種の保存法」規制対象種(国内希少野生動物)。

■**文献**：

安田亘之（1993）クマタカ. pp. 44−45. In: 鳥取県のすぐれた自然(動物).

執筆者：片岡智徳